

(2) 米づくりのさかな会津盆地

会津盆地は長い所で東西10キロメートル，南北25キロメートルの広さがあり，標高^{ひょうこう}170から250メートルの平らな土地が広がっています。盆地には阿賀川（大川），日橋川，宮川（鶴沼川）などの川が流れ，田植えのころにはたくさんの雪どけ水を運んできます。また，これらの川は，長年にわたって^{ようぶん}養分をたくさんふくんだ土も運んできたのです。



▲いねの花

会津盆地の夏は，気温が高く晴れの日が多いので日照時間（日光を受ける時間）も長くなります。これは，いねの穂に^ほ実がなることや，実がじゅうぶんに大きく育つためには大切なことなのです。

これらの土地や天候にめぐまれた会津盆地は，古くから米どころとして知られてきました。しかしながら，豊かな水を運ぶ川は，時には人々に水害をもたらしてきました。また，大きな川が流れていない土地では，水不足になやまされてきたのです。

こうした問題を多くの人々の工夫と努力で解決しながら，人々は豊かな「米どころ」を作ってきたのです。



▲阿賀川の堤防



▲ため池